

奨励賞（神奈川県立青少年センター館長賞）

## 「小さなことを大切に」

神奈川県立相模原中等教育学校 1年 戸高<sup>とだか</sup> 颯南<sup>さな</sup>

私はクラシックギター部に所属しています。総勢70名ほどの部員で、大小様々な種類のギターを使い、高音から低音まで合計6つのパートに分かれてアンサンブルをしています。その中で私は、低音部を担当しています。主旋律を弾くことは少ないのですが、曲に厚みを持たせるパートで、縁の下の力持ち的な存在です。

クラシックギター部が最大の目標としてかかっているのは、夏に開催される「全国学校ギター合奏コンクール」です。過去に何度も最優秀賞を取っており、今年の夏も最優秀賞を取るために、日々、部員全員で、全力で練習に取り組んでいます。

時が経つのは早いもので、もう入部してから3か月が経っているのですが、入部した当初から、先輩たちについていくのに必死です。中高一貫校なので、中学生から高校生までがいっしょに活動しています。高校2年生や高校1年生は、練習にかけた時間だけでなく、数々の演奏会で経験を積んでいるだけあって、ギターがとてもうまいです。音量も大きいし、音質もきれいだし、そして何より、指を動かす速度が速いです。その先輩たちに追いつこう、追いつこうと思うのですが、まだまだ自分の実力が足りず、「弾けない…どうしたら、先輩たちみたいに上手に弾くことができるんだろう…」と悩む毎日です。もうとにかく、自分のことで精一杯で、自分の音だけしか考えてなくて、同じ部活の仲間や同じパートの先輩たちといっしょに演奏しているのに、自分の演奏、自分が弾いている旋律のことだけで頭がいっぱいなことがまだまだ多いです。

私は低音部なので、高音部の人の演奏と合わせる機会もありました。けれども、自分の音だけしか聞こえてこなくて、自分一人の世界にいました。それでも、練習を重ねていくうちに、だんだん周りの人の音や、高音部の人の音も耳に入ってくるようになりました。しかし、耳に入ったというだけで、まだまだ、いっしょに一つの曲を弾いているという実感はありませんでした。

ある8月の日のことです。冷房が効いた視聴覚室で、いつものように先輩方と演奏を合わせていました。

その時です！これまでも、周りの人の音は聞こえていました。しかし、それまでは自分の演奏を含めて、単なる音の連なりとしてしか聞こえていなかった部分が、大

げさかかもしれませんが、曲に、音楽に聞こえたのです！それまでの努力が実を結んだ瞬間でした。横で弾いている先輩たちとの呼吸もぴったり合う。これは、私にとっては初めての経験で、新しい扉が開いたような感じがしました。コンクールでの演奏に比べたら、たった1回の練習の中で起こった小さな出来事ですが、先輩たちと息が合った瞬間、体がカーッと熱くなり、汗をかくぐらい、うれしさが込み上げてきました。「弾けた！呼吸があった！」と思いました。コンクールで最高の演奏をすることがうれしいことだと思っていたのですが、「大きな目標の前に、こんな喜びがあったんだ！」と感動しました。体感としてビビッと来た瞬間で、あこがれの先輩たちに近づくために、もっともっとがんばろうと、部活動がいっそう楽しくなりました。

賞を取ったり試合に勝ったりするなど、努力が報われる瞬間は誰にでもあると思います。しかし、その結果を手に入れるまでにある、日々の練習の積み重ねの中にかくれている小さな喜びに目を向けることこそが、むしろ大事なんだと気づきました。

私は、クラシックギター部のアンサンブルを通して、日々の小さな喜びに気づくことができました。私はこの気づきを、これからの演奏、そして、これからの日常生活にも活かしていきたいです。大切にしていきたいです。誰もが小さな喜びに気づいて、それを大切にしたら、毎日がぐっと楽しくなると思います。